

## 兵庫県佐用町昆虫館周辺で再捕獲されたアサギマダラのマーク個体 2010年と2011年の記録

宮武 頼夫<sup>1)</sup>

### はじめに

アサギマダラ *Parantica sita nipponica* (Moor, 1883) は、タテハチョウ科マダラチョウ亜科に属し、春から夏にかけては北～東へ、秋には西～南へ、季節的な渡りをするチョウとしてよく知られている。1980年ころから翅にマーク(標識)をする移動調査がはじまり、最近では北海道から沖縄まで、調査に関わる人がかなりの人数に上る。インターネットの普及もあって、マーキング情報も再捕獲情報もほぼその日のうちにメイリングリストに載るので、移動状況がつかみやすくなっている。

さいわい、佐用町昆虫館周辺で、昨年と今年(2010年と2011年)の秋に遠隔地からのマーク個体が再捕獲されたので、記録しておきたい。

### 【2010年の記録】

福島県グランデコ 8/9 → 兵庫県佐用町 10/17(南西方向へ 69日間で 588km 移動)

10月17日(日)に一日館長をされていた竹田真木生氏が、兵庫県佐用町昆虫館の庭で花で吸蜜するアサギマダラを観察され、報告のメールの中で記号や番号などを記されていたので、問い合わせたところ、以下のよう  
に福島県からの長距離移動であることが分かった。

標識：SRS1083 デコ 8/9

性別：♂

標識日：2010年8月9日

標識場所：福島県耶麻郡北塩原村 桧原荒砂沢山グランデコス  
キー場

標識者：栗田昌裕

備考：ヨツバヒヨドリで吸蜜

↓

確認日：2010年10月17日午後曇り

確認場所：兵庫県佐用町船越 佐用町昆虫館の庭、標高約 240m  
(メッシュコード：52345314)

確認者：竹田真木生

確認状況：フジバカマで吸蜜

確認後：そのまま放置

備考：この日、前日に昆虫館周辺でマークされた個体の内の1頭が再確認されている。

### 【2011年の記録】

石川県宝達山 9/14 → 兵庫県佐用町 10/9(南西へ 25日間で 280km の移動)

10月9日(日)に、昆虫館でこども昆虫道場の最終回「アサギマダラのお話とマーキング」が行われ、7名の子も達が12頭のアサギマダラを捕まえマークしたが、その内石原彩代さんが捕獲したのが、石川県からの移動個体であった。

標識：ほうだつ 9/14 EIKO 51

性別：♀

標識日：2011年9月14日 11:06

標識場所：石川県宝達志水町宝達山 標高 600m (メッシュコー  
ド：55361635)

標識者：橘 英子

↓

再捕獲日：2011年10月9日 12:55

再捕獲場所：兵庫県佐用町船越 佐用町昆虫館付近、標高約  
240m (メッシュコード：52345314)

再捕獲者：石原彩代



図1 石川県から佐用町へ移動したアサギマダラ(金子留美子撮影)。

<sup>1)</sup> Yorio MIYATAKE アサギマダラを調べる会、こどもとむしの会

天候：晴れ 気温 22.0℃

個体情報：前翅長 52mm, 鮮度は古, 破損あり, 交尾済み

備考：飛んでいるのをタオルを振って近くへ呼び寄せて捕獲.

「イシ 2 SY 10/9」と記して放蝶. 写真画像あり (図 1)

今回、遠距離からのアサギマダラの移動個体が確認されたことで、佐用町昆虫館付近はアサギマダラの移動ルートに含まれていることが確実になった。春と秋の移動シーズンには、子ども達にも関心を持ってもらい、花に止まっている個体が見つければ、マークがないかよく観察してもらうこと、また新たにマークをつけて放すよう指導していくことで、生き物の生き方に触れることができるし、自分たちも調査に協力することができるのだという意義を感じてもらえることができるだろう。

また、昆虫館周辺は有毒なのでシカが食べないこともあって、アサギマダラの幼虫の食草であるキジョランが繁茂しており、春の北上個体の産卵場所、秋の移動個体の産卵・幼虫の越冬場所としてよい環境となっており、若齢期の観察にも適している。

昆虫館の庭に春には成虫が集まるスイゼンジナや野草のハナイバナなど、秋にはヒヨドリバナやフジバカマなどを増やすことで、成虫が誘引できると思う。また、庭にキジョランをもっと増やすことで、自然な状態で産卵や幼虫の習性を観察出来るだろう。

最後に 2010 年のマーク個体の情報を提供いただいた竹田真木生さん、2011 年に再捕獲をして下さった石原彩代さん、福島県での標識情報をいただいた栗田昌裕さん、石川県での標識情報をいただいた松井正人さん、石川県からの移動個体の写真を提供された金子留美子さんに厚くお礼を申し上げます。